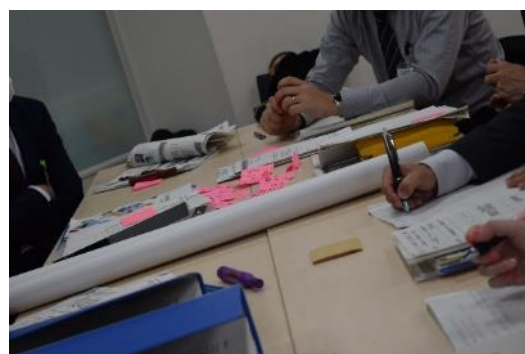


2019 年度

SDG s に向けての協働型のしくみづくりに関する 自治体ミーティング

日時：2020 年 1 月 10 日（金）14:00～17:25

場所：名古屋市環境学習センター エコパルなごや バーチャルスタジオ
（伏見ライフプラザ 13 階）



主催：「なごや環境大学」実行委員会

●概要

目的

自治体として、SDG s にどのように取り組むとよいのか、多様なセクターとの協働型で実施するにはどのように推進するとよいのか、総合計画や環境基本計画にどのように取り入れていくとよいのか、事例からの学びや課題を共有しながら意見交換を図るとともに、今後の情報交換のネットワーク作りの機会とする。

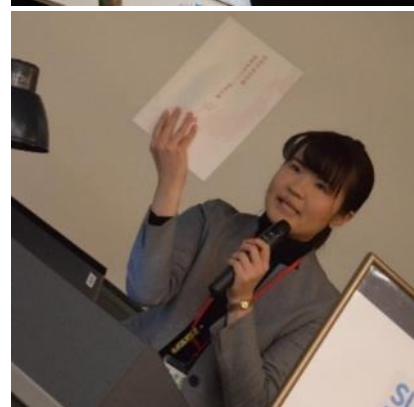
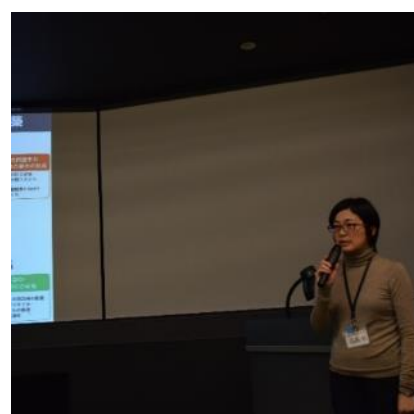
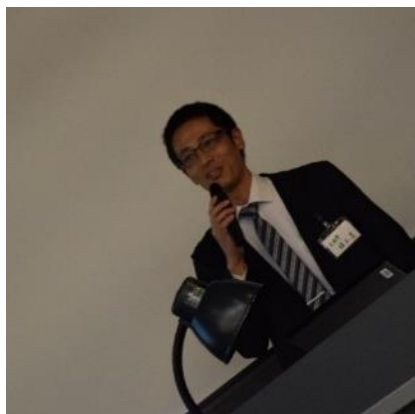
参加自治体 22 自治体 参加者数：33 名

愛知県：愛知県、名古屋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、
津島市、刈谷市、豊田市、新城市、東海市、大府市、岩倉市、日進市、長久手市、
東郷町、武豊町、幸田町

岐阜県：多治見市

三重県：四日市市

兵庫県：尼崎市



プログラム

●14:00 主催者挨拶

話題提供

「SDG s と自治体の環境行政－環境学習と環境基本計画を軸として」

千頭 聡（「なごや環境大学」アドバイザリーボード、日本福祉大学執行役員、藤前干潟協議会 会長）

事例発表

尼崎市

井奥 沙織氏（尼崎市 経済環境局 環境部 環境創造課）

「総合計画における尼崎市の SDG s 達成に向けた取組の推進について」

－尼崎版 SDG s（17 の目標を踏まえて）－

大府市

植木 孝氏（大府市 市民協働部 環境課）

「大府市の SDG s への取り組み紹介」

～総合計画と環境基本計画との関連について～

日進市

犬飼 啓貴氏（日進市 企画部 企画政策課）

SDG s にむけての協働型のしくみづくりに関する自治体ミーティング

「日進市の取組と今後の予定」

名古屋市

斎藤 牧氏（名古屋市 環境局 環境企画部 環境企画課）

なごや環境大学 SDG s 未来創造クラブについて

●15:15 ディスカッション ラウンド1（50 分）

5 グループに分かれ、テーマについてディスカッションを行う

●16:10 ディスカッション ラウンド2（30 分）

ラウンド1の全体共有

●16:40 ～これから～（30 分）

ディスカッションからの学びあい 質問・応答など

●17:25 閉会

●はじめに

千頭 聡（「なごや環境大学」アドバイザリーボード、日本福祉大学執行役員、藤前干潟協議会 会長）

2030 年を目標として日本を含め全世界が取り組んでいる持続可能な開発目標(SDGs)ですが、自治体がこの動きにどう取り組んでいけばいいかについての検討は、まだ緒に就いたところです。本日は、主にこのテーマで参加された自治体の皆さんと認識を共有していきたいと考えています。

自治体が策定する総合計画やその環境版でもある環境基本計画の中で、SDGs への取り組みをどう表記するかについては、本日のちほど発表いただく、尼崎市や大府市、日進市や名古屋市など、いくつかの自治体で先進的な取り組みがはじめられています。

同時に、一部では、SDGs の 17 のロゴを関連する施策などに貼りつけることに重点がおかれてしまっているようにも思います。本来、2030 年には、どのような社会にしたいのかというビジョンの検討がしっかりと行われ、そこに向かって、今からどのような施策を、どのようなベンチマークの下で実施していくのかのバックカスティングが必要です。その意味では、17 の目標レベルだけではなく、169 のターゲットレベルでの検討が不可欠です。もちろん、国連ベースでの目標や取り組みと、地方自治体レベルでのものとは同じではありません。それぞれの自治体が、自分たちの地域の特色や資源、抱えている課題などを踏まえながら、自治体としての目標を描くことが重要です。

また、17 の目標は互いに独立して達成できるものではなく、互いに深く関わっています。したがって、総合計画や環境基本計画においても、一つの施策が複合的な効果を生み出せるように検討することや、複合的な目的のために施策を組み立てていくことも必要です。

本日は、参加された皆さんと、問題点を共有しながら、これからどう取り組んでいけばよいかのアイデアを出し、互いに何かのヒントと刺激を持ち帰ることができればいいと考えています。よろしくお願いします。



松本 イズミ（「なごや環境大学」実行委員、NPO フィトラボ 代表）

SDGs に取り組むといってもどのように取り扱えばいいのか、所属の部局だけでは解決しないことも多い中、どのように進めていくとよいのか、、、悩ましいことがたくさんある中で、自治体職員という同じ立場の方々が少しフランクに話し合い、ともに考える場として本日の企画があります。

また、計画に取り込んで「実施」するにあたりしみん（市民・市民団体、企業、教育機関、行政などすべてのステークホルダー）との協働はキーとなり、「なごや環境大学」のようなしくみはその手法のひとつなんじゃないかなと思っています。皆さんとともに考えこの交流の時間が、なにかしらのヒントになることを願っております。



●事例発表

〈**尼崎市**〉 経済環境局環境部環境創造課

井奥 沙織氏

〈**大府市**〉 市民協働部 環境課

植木 孝氏

〈**日進市**〉 企画部 企画政策課

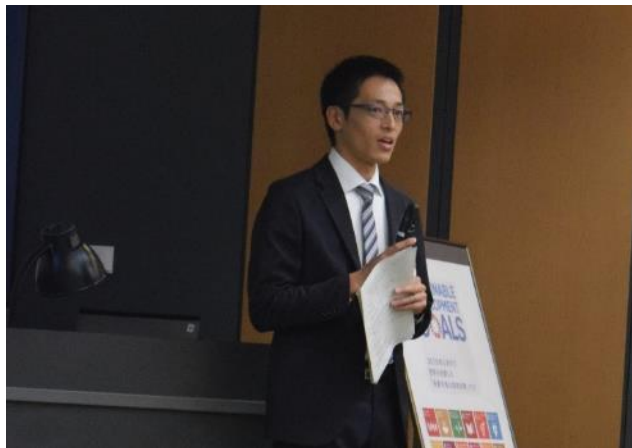
犬飼 啓貴氏

〈**名古屋市**〉 環境局環境企画課

斎藤 牧氏



尼崎市 井奥 沙織氏



大府市 植木 孝氏



日進市 犬飼 啓貴氏



名古屋市 斎藤 牧氏

〈尼崎市〉

尼崎市について

尼崎市は兵庫県の東部に位置し、産業都市として栄えてきた半面、公害の歴史をもっているが、市民・事業者とともにそれを克服してきたという強みも持っている。

変遷

平成 23 年度 尼崎版グリーンニューディールの制定（環境と産業の共生）

平成 25 年度 尼崎市総合計画を策定、「環境モデル都市」に選定。

平成 30 年度 あまがさき版 SDG s の公表（SDG s の視点からパッケージング）

SDG s はどのように取り入れている？

尼崎市として実現に向け取り組んで行く、市民、事業者と行政とで共有していきたい「ありたいまち」の姿を、まちづくり構想に示すとともに、基本計画において、その「ありたいまち」の実現に向けて「16 施策」に分類した取組の方向性を示している。総合計画で取り組む方向性は、国際社会全体の開発目標である SDG s の目指す 17 の目標と方向性が同様であることから、総合計画の推進を図ることで SDG s の目標達成にも資すると考えている。

例えば（以下複数項目のうち 1 項目抜粋）

目標 7「すべての人々の安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する」は、総合計画では、

○地球温暖化問題への対応

にあたり、自然エネルギーの公共施設への率先導入や家庭及び事業所での利用促進、環境に配慮した事業活動の支援を行うことで、地球温暖化問題への対応を行うこととしている。

目指す「ありたいまち」に向けたまちづくり、SDG s の推進のいずれも、行政のみで実現できるものではなく、目標 17 のように市民・事業者等、多様なステークホルダーとパートナーシップを深めながら、引き続き取り組んでいきたい。

〈大府市〉

大府市について

- ・面積：約 33.66 k m² ・人口：92,414 人（増加傾向／平成 31 年 3 月末）
- ・65 歳以上が 21.34%（全国平均 26.60%）と若め。
- ・至学館大学があり、吉田沙保里氏などスポーツ関係で著名な人物と縁が深いこともあり、健康都市を打ち出している。

SDG s はどのように取り入れている？

- ・第 6 次大府市総合計画（2020 年策定予定）

総合計画に示す施策の方向性は、国際社会全体の開発目標である SDG s の目標とスケールは違うものの、目指すべき方向性は同様であり、総合計画に沿った様々な事業を展開することが SDG s の推進にもつながると考えている。

実際に総合計画の 9 つの政策目標に基づく施策体系と、SDG s の関係性を一覧にして整理している。

- ・環境基本計画（2021 年策定予定）

環境基本計画でも、SDG s に基づく持続可能な社会の実現を意識し、大府市の特長と考えている『市民や企業等の地域環境活動のリーダー（プレイヤー）創出』を重要ポイントとしながら、関連施策の策定を進めている。

〈日進市〉

日進市について

面積 34.91 km²・人口 91,542 人・世帯数 37,418 世帯（R1.12.1）

高齢化率 約 19.8%（平均年齢 41.4 歳）

人口増加を続ける活気ある住宅都市、里山、田畑、水辺等が多く、豊かな緑に恵まれている都市、5 つの大学が立地する学園都市、市民参加や市民活動が盛んな都市

SDG s はどのように取り入れている？

- ・ ESD を広義で捉え市民活動等も含め、市をあげて ESD の考え方を取り入れた人づくりを行い、持続可能な社会の実現を目指すための基本的な指針である「ESD 推進基本方針」を平成 29 年度に策定。
- ・ 市内では意識づけを目的として、毎月、給料日にメールで「ESD 瓦版」を環境課と各課等（持ち回り）が 1 ページずつ作成している。
- ・ 平成 30 年度から基礎研修として、一般社団法人イマココラボ開発の体験型ゲーム「SDG s カードゲーム体験会」を行っている。（市内の ESD 推進委員を中心に体験）
- ・ 平成 28 年度以降、各分野で開催されていたイベントを統合（エコフェスタ（環境）、市民活動祭、ハーモニーフェスタ（男女平等）、人権のつどい、平和のつどい）した「にっしんわいわいフェスティバル」を実施。「持続可能なまち 日進」をテーマに、SDG s（持続可能な開発目標）のマークをシンボルとして、市民活動団体等の出展（展示・体験・物販等）や、子どもも大人も楽しめる様々な企画を行うイベントを継続して行っている。
- ・ 第 6 次日進市総合計画を平成 30 年度から策定開始。（計画期間：令和 3 年度～）
日進市自治基本条例に基づき、「市民主体の自治」を念頭に策定。SDG s については、分野別施策に関連アイコンを示すことを検討。市民参加の手法として、キックオフイベントを市内大型商業施設で実施し、公募市民によるワークショップ形式の会議や市民討議会形式によるまちづくりの検討会等を開催している。

〈名古屋市〉

SDG s どう取り入れている？

○なごや環境大学 SDG s 未来創造クラブの推進（名古屋市総合計画 2023 の重点戦略にも掲載）

- ・ SDG s 未来都市として認定・環境・経済・社会の三側面をつなぐ統合的取組として、
なごや環境大学 SDG s 未来創造クラブを設立し、多様なステークホルダーが協働する仕組みを構築する。
- ・ 令和 2 年度・令和 3 年度において、2 つのプロジェクト（錦二丁目地区にて地域課題の解決を図る取り組みを実施し、検証、発信することにより、持続可能なまちづくりを推進するまちづくりプロジェクト・市内小学 4～6 年生を対象に子どもたちへの SDG s 達成に向けた取り組みへの意識を育む人づくりプロジェクト）を推進し、市民や企業による SDG s 達成に向けた活動や行動の創出に取り組む。

●ディスカッション ラウンド 1

(敬称略)

グループ	自治体名	参加者氏名
1	多治見市	企画防災課 安田智之／環境課 柏木明里
	一宮市	環境保全課 野田敬子
	岡崎市	環境政策課 坂本昌寛
	新城市	環境政策課 高橋加奈
	武豊町	企画政策課 福谷裕／環境課 田中貴久
	なごや環境大学	企画チーム／宮木歩美
2	豊田市	環境政策課 竹内晨
	岩倉市	秘書企画課 小出健二
	刈谷市	企画政策課 塚本茂人／環境推進課 吉村糸織
	日進市	企画政策課 犬飼啓貴／環境課 松田涼輔
	なごや環境大学	企画チーム／鈴木慎太郎
	なごや環境大学	(名古屋市環境企画課)／山川明音
3	尼崎市	環境創造課 井奥沙織
	半田市	企画課 鈴木利聡／環境課 中村裕道
	瀬戸市	環境課 長江孝、上四元直樹
	東郷町	企画情報課 宮崎晃／環境課 安藤弘隆
	愛知県	環境局環境活動推進課 高橋直美
	なごや環境大学	(名古屋市環境企画課)／遠山直人
4	長久手市	経営企画課 金子達也／環境課 佐藤雄亮
	津島市	企画政策課 牧齊世／生活環境課 北岡元気
	大府市	環境課 植木孝
	幸田町	環境課 本田和広
	なごや環境大学	企画チーム／江坂恵里子
5	四日市市	政策推進部 橋本直也／環境部 赤堀剛寛
	東海市	企画政策課 渡邊智也、伊藤純一
	春日井市	環境政策課 岩井浮治
	名古屋市	環境企画課 斉藤牧、都築茜
	なごや環境大学	企画チーム／野中賢輔

■グループごとに、SDGsにどう取り組むか、各計画へどう反映させていくか。今ある悩みや課題を共有し、気づき等をディスカッション。

●ディスカッション ラウンド 2 ～各グループ発表～

[グループ1]

■現在の状況の共有

- ・総合計画も環境基本計画も策定期間に関しては来年再来年のところが多かったため、どのように入れ込んでいくかの悩みが多かった。
- ・多治見市に関しては前期計画が本年度終了で現在後期計画を見直し中、来年度から後期計画が実行されていく。SDG sの話は出たが、総合計画とSDG sがつながっているので無理に入れ込む必要はないという考え方におちついた。

■現在の課題

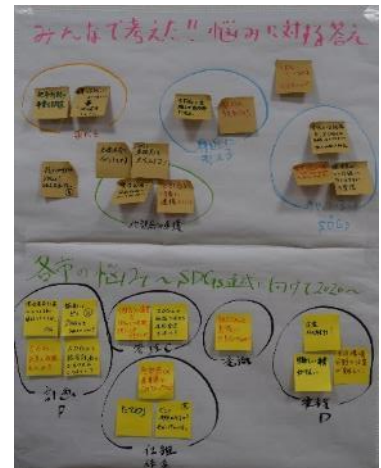
- ・総合計画や環境基本計画の策定の段階でどう取り入れるか
- ・進行管理
- ・どの部局がやっていくのか
- ・庁内全員の意識づけ
- ・具体的な事業案

■課題解決に向けて

- ・既存の事業自体、SDG sに関連するものも多く、アイコンとしてマークを入れることもできるが、無理に結び付けなくてもよい
- ・市民が実際に調べたり、もっと身近に考えてもらえるようなイベントを開催する
- ・部局ごとで縦割りに行うのではなく、一緒に取り組む中で企業や市民などのステークホルダーもまじえていく仕組みづくりが大事

■その他

- ・他自治体の進行具合を知り、今後自分たちの自治体がどのように取り組んでいくかの情報交換ができたのが、とても良かった



[グループ2]

■現在の状況の共有

- ・策定直後、策定中の自治体が混ざっている

■現在の課題

- ・根本的にSDGsの位置づけ、理解度の整理がうまくできていないのではないか

○現場として

- ・どのように推進していくか
- ・本格的な推進のために何が必要かわからない
- ・具体的な事業案

○各計画について

- ・どのように取り入れるか
- ・計画上どのように進めるか



■課題解決に向けて

- ・ステークホルダーかつリソースとして「高校」「企業」があげられた。

■その他

- ・悩みは共通して「具体的に何を誰とどのようにやっていくか」であり、特効薬があれば教えてほしい。



[グループ3]

■現在の課題

- ・部局が固定
- ・個人の視点により様々なとらえ方ができるため、17の目標のうちのひとつに振り分けるのが難しい
- ・市内や市民にもSDGsというものがまだ充分浸透していない中で推進していくのが難しい
- ・企業との連携



- 学生から高齢者まですくいあげていけるものを考えていく必要がある
- SDGs = 環境ととらえられている
- 経済面から考えていくのが難しい

■課題解決に向けて

- 課題だけが上がり、他グループに聞いてみたいというところで話が終わった状況。



[グループ4]

■現在の課題

- 総合計画や環境基本計画にアイコンをつけることの意義はあるのか
- 既存の取組みに SDGs の目標を付けなおすという作業が必要なのか

■課題解決に向けて

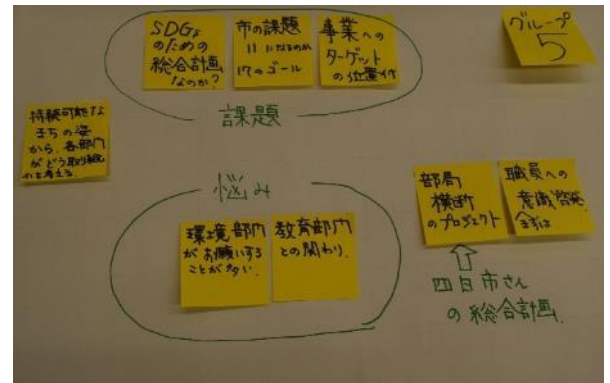
- SDGs はトップダウンで「目標をやりなさい」というものではなく、地方からボトムアップしていったって成し遂げられるものだというもの。それぞれの市町の特徴・特性を活かせばよい。
- 17 の目標を均一に達成しようとするのではなく、市町村の特性に応じて重点的に取り組む事項のウェイトが違って、最終的に国や世界全体で達成できればよいと気づいた。



【グループ5】

■現在の課題

- SDGsのゴール＝市の総合計画のゴールなのか
- 総合計画を作ってアイコンで表示し“SDGsウォッシュ”のようにになっているが、企業も含め本当のSDGs達成に向けて自治体としてどうしていくべきか
- 既存の事業にターゲットを貼っていく作業をしてもなかなか本来のターゲットに向けた事業を生み出すのが難しい
- 環境部局から各部局、教育部門へお願い事のようになってしまって、一緒に取り組むのが難しい



■課題解決に向けて

- 職員への意識づけが必要という話が出て、名古屋市で言えば今年から全庁的な研修が始まりカードゲームもやりだした。総合計画・環境基本計画もSDGsを意識して組みだしているので職員への意識づけも浸透していくと考えている。
- 四日市市は今年度総合計画を策定しているところ。
SDGsに関しては各部局横断型のプロジェクトとして商工部局と都市整備局が一緒になってスマートシティを作っていく形でSDGsを達成していこうとしている。



【質疑】

- 四日市市はどうして横断型で進めることができたのか。大変興味深く発案のきっかけが分かれば知りたい。
→議会で「四日市ではSDGsをどのように進めていくのか」という質問が出て、「全体として進めていく」と答えた関係もあり、縦割りをやめて進めていった。
- 班の中で具体的な事業はどうしたらいいかという話があったが、既存計画ではなく新たな事業を起こす場合SDGsにあたる事業が何かあったら教えていただけないか。

→新しい事業というのと少しずれるかもしれないが、目標 1 の「貧困をなくそう」について、国連では 1 日 1.25 ドル未満で生活する人々を終わらせるというものだが、この日本の身近な問題でとらえなおし、(必ずしも貧困だけではないが) 例として「子ども食堂」で考える。

「子ども食堂」は 1 番の「貧困をなくそう」にあてはまるが、3 番の「すべての人に健康と福祉を」、10 番の「人や国の不平等をなくそう」にもつながり、また一方では食品ロスも大量に出ており、そちらは 12 番の「つくる責任使う責任」、11 番の「住み続けられるまちづくりを」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」にも関わる。「子ども食堂」をどのように地域で支えるかは 17 番の「パートナーシップで目標を達成しよう」。運営をされている方は「大変な子どもたちがいるから何とかしたい」という気持ちで始められているが、継続が難しく、課題をたくさん抱えている。このように多角的な視点を持つことで直接的に資金を寄せるだけでなく、ほかのいろいろな要素も含まれた結果として子ども食堂が支えられているということができるといえる。既存のイベントなどでもこのように発想を広げていけると考える。

- ・大府市の発表の中で、新しい環境基本計画の体系案の中に場づくり、機会づくりという中に「子どもの環境学習体験」や「子どもに科学の面白さを伝えながら環境を共に学ぶ」という表記をみつけ、今武豊町ではごみ減量について取組み啓発活動をしていかなければならないという中で「何かこういうことが検討できるよ」と言う事例があれば教えていただきたい。

→策定に際して市民会議の中で市民から意見をもらっていて、それと並行し各部局に環境に関連する事業の照会をかけてあてはめていった。例えば自然共生社会づくりというのははまりやすかったが、場づくり・機会づくりに載っているような項目は最初浮いていて、これは場や機会があれば参加してもらえるのではということで現状仮ではあるがここに置いている。市民会議のメンバーに科学系の専門職だったシニアの方がいらっしゃって、科学の視点から自然の大切さや、子どもに伝えられるという意見が出てきた。当初意図したわけではなかったが、市民会議という場を設定したことで、そういうプレイヤーをみつけることができたと感じている。

【総括～まとめ・これから～】

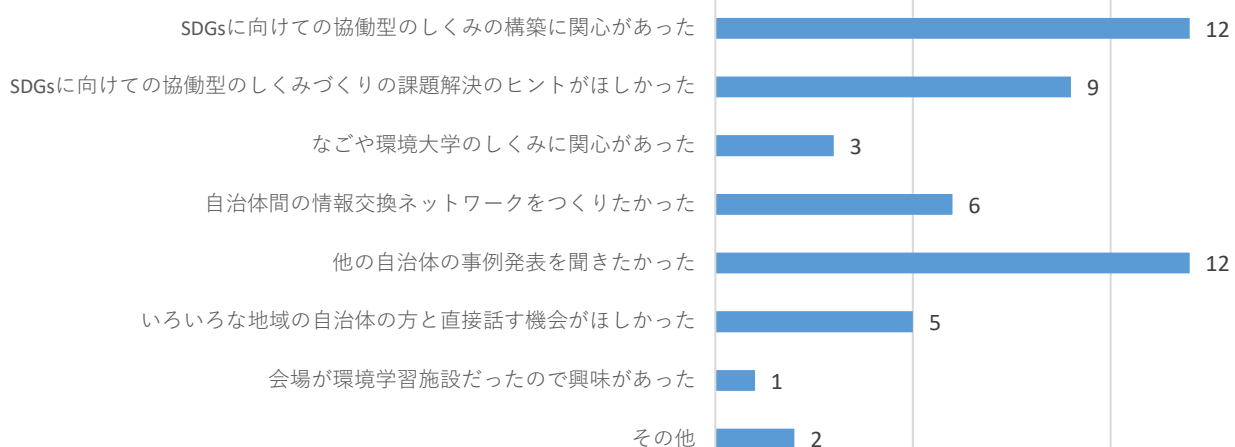
千頭 聡

今回、どの自治体も悩みがあるということが分かった。大事なのはみなさん感じられた通りラベルを振り分けるのが目的ではないということ。では何が目的なのかというときに、市役所の中でいろいろな人がそれぞれの目的で事業を行っているが、先ほどの子ども食堂の例のように既存の事業がもしかしたら別の効果も生み出すかもしれないし、その事業を本当に進めようとする際に違う角度から何かをすることでその事業がよりよく進むかもしれない。それが何かを考える際に、17の目標が役に立つかもしれない。目的も手段もいろいろな角度からつついてみるともっと効率的、効果的に行けるそういったアイデアを出すためのツールにもして使うこともできるだろう。

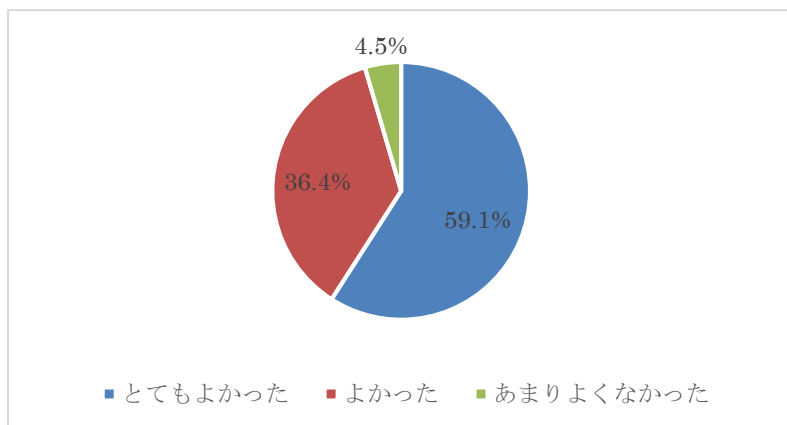
同時に本来「持続可能な地球」を考えてそのために必要な17の目標というもので出てきているので、みなさんの町の持続可能な街のイメージを考え、それを実現するためにどんなことをやっていかなければならないのかと考えて結果として色の濃淡はすごく出てくる可能性はあると思うので、それでいい。目的と手段は実際行ったり来たりするが、少なくともラベルわけが目的とならない議論のプロセスで、発想を広げるという意味で使っていければ良い。悩んでいるということは共有できたので、可能ならば半年から一年後に、どこかの自治体が少しそこを突破したということが分かれば、また共有して、別の課題が生まれたらそこで共有する…いうことができればいいと考えている。

実施後アンケート集計

1. 本ミーティングへの参加動機をお聞かせください(複数回答可)



2.本ミーティングについてのご感想についてお聞かせください



よくなかった

どちらでもない

・・・0%

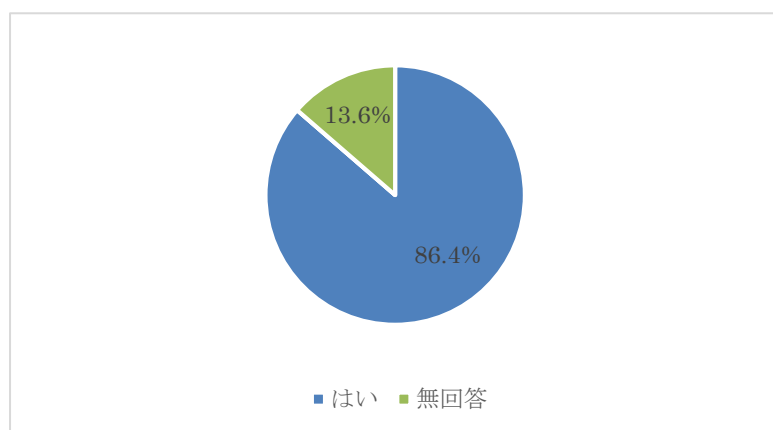
3.本ミーティングに参加されて、気づかれたことや感想などお聞かせください

- ・他の自治体と情報交換できてすごく良かったです。
- ・他市には、総合計画・環境基本計画に載せる必要がないと考えているところもあったが、取組みとしてはどの市もSDG sの目標達成に向けて実施していくというところばかりであった。その方法として、各市の内容を情報共有することで、今後の取組みを考える上での引き出しを増やすことができた。
- ・どの自治体も悩みが共通していることに気づきました。先進的な事例をヒントに、まちに合ったSDG sのかたちについて今後も考えていきたいと思いました。
- ・SDG sについて他自治体の取組みを聞いて参考になりました。本市は現在、次期総合計画の策定作業を進めていますが、本日の内容を参考にして今後の作業を進めていきます。
- ・尼崎市さんの発表などから、17のゴールを地域のゴールとして考え直せばよいんだという気づきを得た。大府市さん、四日市市さんのプロジェクトはSDG sとしての本来の施策の推進になっていると思った。
- ・ほかの自治体も同じ悩みを持っているとわかり、意見交流ができて良かったです。
- ・各自治体の悩みなど正直な話が聞けて良かった。
- ・現在総合計画を策定作業中で、SDG sをどのように表記していくか頭を悩ませていましたが、必ずしも冊子に入れ込むことが目的ではなく、柔軟に考えていくことが大切だと思いました。
- ・SDG sの計画への反映のさせ方について、他市町の考えを聞くことができて良かったです。
- ・SDG sのイメージが広がり、具体的なイメージが沸きやすくなった。
- ・いろいろな人の意見が聞けました。他の市の悩みなどを帰って皆に共有していきたいです。そしてまだ、SDG sについて勉強不足な所があるので、知識を増やし、施策を実行していきたいです。
- ・地域の特性に合わせてSDG sの達成状況がすべて良くなくてもよい。(ex.4のみ80%、他はそこまで、など)+自治体間でノウハウ等を渡しあえば良い。

- ・グループディスカッションや市町の事例発表の中で、自治体の施策はSDG sに関連したものが多くあるという認識を持っていることが分かった。自治体と企業がSDG sという共通の「言語」で会話ができることはとても大きなことで、SDG sの活用に意義があるものなのかな、と思った。
- ・行政が推進すべきSDG sの取組が何かということについての明確な考えが今まではなかったが、SDG sのために何かするのではなく、市の課題解決のための「目標」というツールとしてSDG sを活用すればよいと感じた。
- ・SDG sをツールとして活用するという視点を得ました。

4.今後の本ミーティングのような企画の開催について

●次回開催時も参加したいと思いますか？



いいえ

・・・0%

●次回開催時にどんなことを望みますか？

- ・SDG s以外にも適応など、多くの自治体が動きに悩みそうなテーマが発現したとき。
- ・17の目標ではなく、テーマを「環境」などに絞って、先進的なSDG sの取組みの紹介や具体的な課題へのアドバイスがもらえる相談会のような企画があると良いかと思います。
- ・話し合いの時間が増えると嬉しいです。
- ・R2年度中に開催していただきたいです。
- ・同じような意見交換
- ・多様なステークホルダーとのかかわり方の事例
- ・SDG sと自治体
- ・ディスカッションのテーマがあるといいと思いました。
- ・どんなテーマでも良いです。楽しかったです。
- ・計画にSDG sを組み込んだ自治体が、実際にどう組み込んだかを知りたいです。
- ・他自治体との情報交換
- ・総合計画、基本計画の策定・改定が終了した時期に、これからどのように取り組んでいくかの意見交換ができる場を設けていただきたい。
- ・もう少し少ない人数のグループワークを望みます。(5人以下)